

富士山西南麓の縄文遺跡

～縄文人のホットスポット～



富士宮市内には縄文時代草創期から縄文時代晩期までの
約 13,000 年間に作られた**縄文遺跡**が多数分布しています。

富士山噴火の影響を受けながらもその資源を活用し、
変動する環境に適応して人々は生活をしてきました。

なぜこの地が縄文人を魅了したのでしょうか？

これまでの発掘調査成果をふまえてお話しします。



講師

深澤 麻衣

袋井市文化観光交流課学芸員
富士宮市史執筆員

京都大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科修了。2016年から2022年まで富士宮市教育委員会で勤務。史跡大鹿窪遺跡の史跡整備に携わった。現在袋井市で学芸員として勤務しながら、中央大学大学院文学研究科博士後期課程に所属して、縄文時代草創期の集落形成過程についての研究を行っている。富士宮市史編さん執筆員として『富士宮の歴史 通史編Ⅰ』のうち縄文時代の執筆を行った。

日時

2026年 **8月29日（土）** 14:00～15:30（開場 13:30）

会場

駅前交流センターきらら 集会室（富士宮市中央町5-7）

定員

80人（先着順）

入場料

無料

【申し込み】 7月27日(月)から電話・WEBサイトで受付

電話

0544-22-1187（富士宮市文化課 平日 8:30～17:15）

WEB

<https://logoform.jp/form/GgrE/1620866>



Web 申込はこちら